

松江歴史館における松江城天守国宝指定 10 周年記念事業の開催について

2024.6.30 松江歴史館

1 特別展「慶長の城（仮題）」

(1) 概要

関ヶ原合戦直後から日本列島全域で新たな築城が始まる。慶長期の築城ラッシュともいべき状況は、城の普請と作事を飛躍的に発展させ、石垣、瓦、礎石建物で構成する近世城郭を全国に普及した。それは、山城の出現、織豊系城郭の出現に続く、日本城郭史上の画期に位置付けられよう。松江城もこの時期、新領主堀尾氏によって、まったく新たに築かれた“慶長の城”であった。

慶長期には、新たに城を築城するのではなく、旧来の拠点城郭をそのまま利用し、改修する場合もあった。また、城下町のみに武士が集住する形は、松江に城下町が誕生した当初から成立していたわけではない。一国一城令が敷かれるまで維持された、本城・支城体制についても言及する。

本展では主に中国地方における慶長期の築城を比較しながら“慶長の城”松江城の姿をあらわす。

(2) 会期

令和 7 年（2025）10 月 10 日（金）～12 月 7 日（日）

(3) 会場

松江歴史館 企画展示室

(4) 備考

関連行事として講演会等を開催する。

(5) 担当者

松江歴史館 副主任学芸員 笠井今日子

2 ミニ展示「松江城天守保存のあゆみ（仮題）」

(1) 概要

明治 8 年（1875）、旧松江藩士高城権八や豪農勝部本右衛門父子らの尽力により、松江城天守は取壊しの危機を免れた。それから 150 年、松江城天守は修理を重ね、国宝となり、今も往時の姿を留めている。本展では、松江城天守保存のあゆみを、年表や昭和の解体修理関係資料を通して振り替える。

(2) 会期

令和 7 年（2025）5 月 27 日（火）～7 月 27 日（日）

(3) 会場

松江歴史館 展示ホール（展示室前）

(4) 備考

観覧無料

(5) 担当者

松江歴史館 副主任学芸員 笠井今日子